

リデルライト 施設長	ノット 施設長	事務部長	管理部長

平成28年度第2回防災訓練実施報告

1. 期日 : 平成29年 2月20日 (月)

① 避難訓練 10:30～10:50

② 消火体験 11:25～11:50

2. 参加者

リデルホーム: 入居者避難者 23名 (内SS利用者3名) 残留6名 (内SS利用者3名)

入院者 1名

職員避難者 2名 残留 0名

合計 38名

タイム (17分33秒)

ライトホーム: 入居者避難者 44名 残留 3名 入院者 2名

職員避難者 1名 残留 0名

合計 50名

タイム (15分30秒)

3. 内容

①夜間出火想定 (23:00) とする。(出火場所: ライトホーム3階320号室)

②緊急時における初期消火の的確な判断と避難・誘導に重点を置く。

③消火器を扱った事がない職員は消火体験を行い、消火器の使い方を理解する。

消火器訓練参加者 リデルホーム 5名

ライトホーム 2名

ノットホーム 1名

ユーカリ苑 1名

計9名

4. 反省内容

(別紙記載)

*防災訓練反省

1. 各部署より報告

① リデルホーム

- ・いざ訓練が始まったら急いでしまって、声を出す余裕がなかった。
- ・避難誘導の際、どの順路で避難させると良いか迷ってしまった。事前のシミュレーションが不足していた。
- ・リビングに起きておられる方、居室で休んでおられる方の把握ができていなかった。所在確認で手間取ってしまった。
- ・避難誘導に集中してしまい、排煙装置を作動させていなかった。
- ・居室から避難させた後、入口のドアを閉め忘れていた。
- ・応援に来てくれた職員に、どこまで避難が終わっているか、次にどの方を避難させるかなど、引き継ぎができていなかった。

② ライトホーム

- ・火元の奥と手前で避難ルートが変わって来るので、火元の前を通らず、どのようなルートで避難させるといいか迷ってしまった。
- ・非常口に避難させたが、非常口のドアを開錠しておくことを忘れてしまった。そのため、応援者が外から入ってこれない事態となってしまった。
- ・他部署から応援の職員がきてくれたが、明確な指示出しができておらず、戸惑わせてしまった。
- ・訓練終了後に排煙装置を作動させてみたが、うまく作動しない所があった。日頃から作動状況を定期的に点検し、不具合は事前に修理しておくべきだと思った。
- ・火元を発見して、火元の場所を知らせる声出しができていなかった。
- ・夜間は少人数の職員で初期消火、避難誘導をしなければならないので、夜勤の職員、応援の職員同士で声をかけあって、避難状況などの情報交換をして協力していかないと、大惨事になってしまう。声出し、声かけがとても重要。

③ 宿直者より

- ・消防署に119番通報を行った際、非常誘導灯は点灯しているか、火元の階の構造など、想定していなかったことを尋ねられて戸惑ってしまった。
- ・通報時、館内放送を行っている際、やや早口になってしまった。冷静に落ち着いて声を出さないといけないと思った。

④ 木村事務部長(自衛消防隊長)より

- ・最近宿直をするようになった職員もおり、館内放送、通報訓練をしたことがない職員も多い。宿直者はいち早く災害発生を館内に周知し、外部に救助を要請

する重要な役目があるので、館内放送機器の取り扱い、通報の訓練などを定期的に行っていかなければならないと思った。

- ・熊本地震以降、排煙装置等の作動に不具合が出ている部署もある。各装置、消火設備等の動作確認が必要かもしれない。

⑤ 職員からの質問、回答

- ・火元の奥の方に行きたい場合、どのように移動するといいか。
→火元の前を通らないことが原則。奥に行きたい場合は、非常階段などを使用して、火元を迂回して移動する。もし、火元より奥の部屋にいらっしゃる方が自力で避難できる場合、火元から離れた非常口に行っていただくよう声かけし、移動が目視で確認できるならば、職員は火元の奥までは行かなくてもいいかもしれない。
- ・防火扉を閉めたら、火元より下の階は大丈夫なのか。
→完全に大丈夫ということではないが、火の回りをある程度抑えられるので、火元の階よりは落ち着いて避難誘導ができる。
- ・今回は居室が火元であったが、実際に火災になった場合、スプリンクラーは火元の居室だけ作動するのか。
→スプリンクラーは、各居室ごとに作動する。全体が作動することはない。
ただし、スプリンクラーの作動した部屋と、その真下の部屋は浸水してしまう。

報告者
リデルホーム黒髪
岩田 和紘

